



とき
5月12日(木)
午前10時～午後6時

■ところ
関西電力本店前
大阪市北区中之島3-6-16
地下鉄「肥後橋」駅 300m

福島第一原発ではまだ管理不能のプルトニウムとウランが大量にあるのに、保安員は再臨界の可能性を言いません。目の前で原子炉がコントロールを失い建屋が崩壊するのを見ても未だ最悪の事態を想定出来ない懦弱な官僚機構がいます。

彼らは何が起こっても想定外と言い続けるのでしょうか。本当は知っていることでも知らなかったと子供の言い訳をするエリート集団に私たちは命を預けてしまっています。

現在、やはり想定すべき最悪はメルtdownから再臨界、大地を掘り進んで水蒸気爆発で土台から吹き飛ばすという事態で、これを避ける為に最大限の努力があるのは当然として、それでも起こるかも知れない最悪にどう対策を組むのかが本来の彼らの仕事です。石棺の準備すら無い今の事故対策は無責任の極みで許されないことです。

現状の打開のために今一番必要なことは、これまでプレート地震のマグネチュード 7.0 しか想定せず（これで想定される震度はせいぜい震度 6 強でしかない）直下型の地震も津波も考慮に入らずデタラメの安全論を展開してきた東電にいつまでも現場の指揮をさせず、今まで反原発の立場で声を上げ続けてきた専門家に任せることだと思います。

しかし、原子力産業はメディアと金融資本を土台に置いて、国家の強力なバックアップを受けてここまで拡大してきましたから、簡単に彼らの力を押さえることは出来ません。

私たち民の力を結集して見せつけていく、東京まで行って東電を包囲すれば直接的で解りやすい話ですが、万を超え数十万という人間が東京に入るには、東京で反原発の闘いをする人たちの受け入れ体制という問題があり、これは東京からの呼びかけを待つ必要があります。関西に住む私たちは、まず関電を包囲しましょう。

万を超す関電の包囲は東電に対して必ず大きな圧力となり、全国で反原発を闘う人々に大きな弾みとなります。

私は関電包囲の前哨戦として5月12日、関電一日包囲の2回目を行います。

これは長期にわたって包囲を続ける行動への伏線となるものです。

賛同いただけるならば時間内のいつでも良いので、この行動に是非参加頂きたいとおもいます。

これが関電を包囲する理由です。

■連絡先 tatakau@kidae.info